



布水中道徳通信

「道徳」＝「自分をよりよくするためのヒントを探す時間」となるように

日頃より、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

道徳教育は、生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成することをねらいとして行われてきました。中学校では令和元年度から道徳の時間は「道徳科」という教科となり、4年目を迎えていきます。

この「道徳通信」では、学校教育全般における道徳教育の取り組みや道徳の授業の様子などを紹介していきます。紹介する様々な取り組みについてご家庭や地域でも話し合い、心をはぐくむきっかけとなってもらえたなら幸いです。

年間を通じて考えていく「22個の心」

道徳科の時間は一人ひとりが自分の「心」と向き合う時間であり、毎時間1つの「心」についてクラスの中で話し合い、互いに意見を交流し合う中で、その「心」について考える「ヒント」を得ています。

各学年、年間を通じて考える「心」が22個あります。

A. 自分自身に関すること

- ①自主・自律
- ②節度・節制
- ③向上心
- ④希望と勇気
- ⑤真理の探究

B. 他の人との関わりに関するこ

- ⑥思いやり
- ⑦礼儀
- ⑧友情・信頼
- ⑨相互理解

C. 集団や社会との関わりに関するこ

- ⑩遵法精神・公徳心
- ⑪公正・公平
- ⑫社会参画
- ⑬勤労
- ⑭家族愛
- ⑮集団生活の充実
- ⑯郷土の伝統と文化の尊重
- ⑰国を愛する態度
- ⑱国際理解・国際貢献

D. 生命や自然などとの関わり

- ⑲生命の尊さ
- ⑳自然愛護
- ㉑感動・畏敬の念
- ㉒よりよく生きる喜び

22個
の心

人間にとて必要な「心」を知る、感じる、考える

1学期の2年生の実践より



「あいさつ」 B-(7)礼儀

「あいさつは親しい人同士だけがすればいいのか?」「あいさつはなぜ必要なのか?」と「あいさつ」の意義について考えました。それらを考えることを通して、生徒一人ひとりが自分のあいさつを見直し、礼儀を向上させていくことにつなげられました。

【生徒のまとめより】

あいさつは、礼儀や相手の気持ちを理解する道具で、されたら嬉しいし、前向きな気持ちになれるのでとても大切なことだと学びました。自分はあまり沢山の人にあいさつをしていないということに気づいたので、今度からは色々な人に積極的にあいさつをしようと思います。

あいさつは、あいさつ1つで仲良くなることができたり、朝のあいさつだと、スタートの気分が良くなったりと、あいさつをすることでいいことがたくさんあるから、いろんな人にあいさつをすることを心がけていきたいです。

あいさつについてあらためて考えられた。あいさつは他人と仲良くなるきっかけにもなるし、雰囲気もよくなるので、あいさつは良い事だと思いました。あいさつをしてくれたら自分は嬉しいし、自分が相手にあいさつするのも気持ちが良くなると思うから、あいさつを大切にしていきたいです。

<「親子の手紙」への協力のお願い>

布水中学校では毎年、夏休み前に「親子の手紙」を書いています。道徳科の授業で「家族」をテーマにした教材をもとに「家族」について考え、子どもたちが日頃、思っている親への感謝の気持ちを書いたものです。6月下旬頃に、お子様が持つて帰りますので、ご協力いただける保護者の皆さまは100字ほど書いていただき、お子様を通して、7月20日（水）終業式の日までに担任に提出をお願いします。（学校でまとめて応募するので、切手を貼る必要はありません。）



のりしろ		のりしろ		のりしろ	
名な 前ま	学が 校こう 名めい	最初に手紙を書いた人に○をつけください。()大人()子ども		○ こどもから大人へ	応募をする人(大人)の氏名
ありがな	國立 県立 市(町)立			続 柄がら	氏し 名めい
中学校	小学校			おうば ひじ おどな しめい	かがな
年せん 組ぐみ				例 父おや 母めい 夫ふく 妻よめ 祖母そよ 母めい	
令和4年度				100字以内で書いてください。 「[]」[]も書いて入れます。	